

特集／特別対談

未来志向で

前進

仙台・宮城・東北の
復活を宣言する
その日まで

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から、約一年が経過します。

仙台・宮城・東北の商工業者は、復興への道のりを今後どのように歩んでいくのか、十七年前に発生した阪神・淡路大震災の経験を参考にさせていただくべく、神戸商工会議所の大橋忠晴会頭を迎え、神戸がどのようにして復興の道を行くのかについてお話をうかがいながら、当所鎌田宏会頭と共に、仙台商工会議所が復興のために取り組むべきことを探りました。

(対談日：二〇一二年一月十九日)

全国商工会議所の「絆」に支えられた一年

進行 大橋会頭は阪神・淡路大震災をご経験されていらっしやいます。当時を振り返りつつ、今回の東日本大震災をどのようにご覧になったのかについてお聞かせください。

大橋 当時、私は五十歳になったばかりで、鉄道車両の品質保証部長として、神戸にある川崎重工業の兵庫工場で日本全国、あるいは世界の鉄道車両の生産をしておりました。

十七年前の一月十七日、地震が起きたのは早朝五時四十六分ごろ。割れた食器の片づけなどをしながら夜明けを待ち、会社に向かいました。最寄り駅に行くと、地下鉄が全く動いていませんでしたので、車で会社に向かいました。市街地の長田区あたりも含め、あちらこちらで火災が起り、煙がたちこめていました。道路は大変な渋滞で、長田区の近くにある兵庫工場にたどり着くのに、普段は三分の道のりに、その朝は二時間を要しました。

今回の東日本大震災ですが、まず阪神・淡路大震災は、神戸市内を中心とした直下型大地震であり、火災との戦いでもあったわけですが、東日本大震災は地震に加え、津波の被害が甚大でした。また規模の面でも、被害が神戸市内に集中

していたのに比べて、今回は広範囲にわたっています。また阪神・淡路大震災では役所が機能していました。しかし今回は役所自体が津波で流されてしまった地域もあります。復興の起点ともいえるべき役所の機能が完全なマヒ状態に陥ったことは、阪神・淡路大震災とは、ずいぶん差があるのではないかと思います。さらに地震・津波の被害にとどまらず、原発事故が発生しました。これが三重苦をもたらし、いまだに苦しむ地域があることを思いますと、本当に心が痛みます。

またサプライチェーンの障害が全国的、世界的に影響を与えたことで、東日本の中小の製造業が日本および世界の経済の根底を支えている実態が浮き彫りになったのではないのでしょうか。その意味ではリスク分散の必要性も思い知らされました。

進行 鎌田会頭は、この一年をどのような気持ちで過ごされましたか。

鎌田 地震発生後は情報入手が困難な状況の中で、神戸商工会議所さんからは、阪神・淡路大震災を経験された会議所ならではの情報をたくさんいただきました。誠にありがとうございます。

仙台では十四時四十六分ごろに発生した地震でしたので、大半の人は仕事場にいました。私も勤務先である七十七銀行のビルの十二階におりました。耐震構造の建物ですが、それが倒れるのではな



おお はし ただ はる
大橋 忠晴氏

神戸商工会議所 会頭・川崎重工業(株) 取締役会長
昭和19年11月生まれ
昭和44年神戸大学工学部を卒業後、川崎重工業(株)に入社。車両事業部
品質保証部長、Kawasaki Rail Car, Inc. 取締役社長などを歴任し、平成17
年川崎重工業(株) 代表取締役社長に就任。21年代表取締役会長を経て、
22年6月より現職。同年11月神戸商工会議所会頭に就任。

かま た ひろし
鎌田 宏氏

仙台商工会議所 会頭・(株)七十七銀行 取締役会長

いかと思うほどの大きな揺れが強烈な
印象として残っています。

仙台市内は、建物が倒壊する被害はあ
まりありませんでしたし、火災も起きま
せんでした。建物については、以前から宮
城県沖地震がいつ来てもおかしくない
と言われておりましたので、大半のビルが
耐震関係の工事を施していました。そう
いう意味では、日本の建築技術の水準の
高さが示されたと感じています。

ところが沿岸部を襲った津波の猛威
の前には、立ち尽くす他ないというよう
な状況がしばらく続きました。しかし神
戸商工会議所さんをはじめ、日本商工
会議所、そして全国の商工会議所間の
ネットワークを通じて、いろいろな情報
はもとより、さまざまな支援をいただき
ました。本当にありがたく、全国にある
五百十四の商工会議所の絆に感謝しな
がら過ごした一年であったと思います。

**「人」が復興の原動力
ソフト面の支援も重要**

進行 大橋会頭にかがいます。阪神・
淡路大震災では、神戸商工会議所はど
のようなサポートを受けられたのです
か。また東日本大震災では、どんな支援
活動を行われましたか。

大橋 当時の商工会議所を知る人に話
を聞いた上でお答えさせていただきます
ですが、全国の商工会議所のネットワー

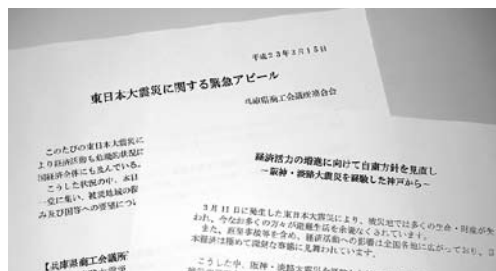


を通じて、救援物資はもとより、経営指導員さんを派遣していただいたり、さらには全国の商工会議所から義援金や見舞金を頂き、総額は一億七千万円余に及びました。このような支援のおかげで、今日の復興を果たすことができ、深く感謝しております。

今回行った支援については、救援物資の提供、仙台商工会議所への職員派遣、五月の「神戸まつり」の際には被災地物産展を開催し、わずかながらも支援させていただきました。また一方で、今回の震災直後は自粛ムードが漂いました。それは当然のことです。しかし、ある時期、被災を免れた地域が元気を出し、経済を活

性化させることが、被災地の復興支援になり得るのではないかと考え方を変えました。それを後押ししたのが、会員企業へのアンケート結果です。「自粛が続くと被災していない地域も沈んでしまうのではないか」という意見が大半を占めたことで、四月四日に「自粛見直し」を宣言しました。経済団体としては神戸商工会議所が全国で最初だったのではないかと思います。大震災の被災経験がある兵庫県、神戸だからこそ許されたのかもしれない。

そして一番よかったと思うのは、被災地に阪神・淡路大震災の経験を伝えられたことです。もの“だけ”ではなく、ソフト



5月の「神戸まつり」では被災地の物産展を開催(上)。それに先んじて、神戸商工会議所では「自粛見直し」を宣言した(下)。

面でもわずかながらも勇気づけることができたのではないかと思っています。

さらに今、遊休機械や工具類を被災企業に無償で提供するという取り組みに神戸商工会議所としても協力するべく力を入れています。ぜひ、それらを役立てていただいて、産業が地域から出ていくのではなく、そこで再生して、雇用を確保していくようになればと思います。復旧にはまだまだ時間がかかると思いますが、局面に応じて、神戸としては息の長い支援を続けていきたいと思っています。

鎌田 ありがとうございます。今後とも、よろしく願いいたします。

聞き取り調査から生まれた 一大プロジェクト

進行 鎌田会頭は、仙台商工会議所の会頭であり宮城県商工会議所連合会および東北六県商工会議所連合会の会長でもいらつしやいます。また被災地域でありながら、より甚大な被害のあった地域を支援されていますが、これらの点を踏まえて、この一年間に行ってきた支援についてお聞かせください。

鎌田 当所では、震災後早い時期から、全会員に状況確認を行いました。その際、神戸商工会議所さんをはじめ、全国の商工会議所から経営指導員を含む職員計三十六人の方々が力を貸してくださりました。当所の指導員と共に、全国各地に集まった経営指導員の方も被災地に赴きまして、津波等の被害を受けた工場にうかがい、必要としているサポートについて聞いてまわったのです。その中で、ある商工会議所の経営指導員の方が、「この機械さえあれば何とか立ち直れるのだが…」とつぶやいた社長の言葉がきっかけとなり、遊休機械のマッチングにつながりました。

当所が日本商工会議所に協力を要請することで、提供してもよいという機械を登録する一方で、被災地の会員企業が欲しい機械を登録するという全国的な仕組みができました。昨年の九月から



「遊休機械無償マッチング支援プロジェクト」としてスタートし、現在、被災地からの要請が約千件、提供の申し出が約六百六十件、マッチングの成立は二百五十件に及んでいます。先日大橋会頭さんからも、二十件に及ぶ登録のお申し出をいただきました。ありがとうございます。

ただ工場が再建できておらず、いただいた機械をすぐ使える状態でない企業も少なくありません。提供していただいた機械類を、きちんと「嫁入り」させながら、今後も宮城県連、東北六県連として沿岸部で壊滅的な被害を受けた地域を中心に、できる限りの継続的支援をしていきたいと思います。

仙台商工会議所は 被災事業所の代弁者たれ

進行 震災発生から一年後の地域や、会員の方々の復興状況についてお聞かせください。また二年目からは、短期的にどのような取り組みが必要だとお考えですか。まず大橋会頭からお願いします。

大橋 被災の状況や地域環境が異なりますので、一概には言えませんが、神戸の場合は倒れた高速道路の橋脚が一年で修復されるなど、わりあい早く復興が進み、次のステップである、まちの賑わいづくりや産業の立て直しへと軸足を移した時期だったと思います。

また、この時期は国内外にまちの復興をアピールする時期でもありました。

神戸で買物を楽しみましょうという「Buy KOBÉ運動」、ファッションのまち・神戸の復興をアピールする「神戸メッセ」や、神戸ブランドを海外に紹介する「神戸ブランドフェア」など、イベントに注力したということです。

また昨年の暮れに第十七回目を迎えた「神戸ルミナリエ」。これは震災の記憶を未来に語り継ぐために、震災のあった年の年末に始めたわけですが、今では毎年四百万人前後が集まる神戸の冬の風物詩となり、観光資源にもなっています。

今後、被災事業所からの要望は時間の経過と共に多岐にわたり、複雑な状況になってくると思います。それを商工会議所は真摯に受け止めて、地域の代弁者として積極的に外部に対して意見を述べ、必要な支援を導いてくるような作業が必要ではないかと思っています。



日本商工会議所を通じて、全国からたくさんの遊休機械が無償で提供された。

鎌田 川崎重工業における震災一年後は、どのような状況だったのですか。

大橋 私は震災当時と同じ鉄道車両の品質保証部長で、お客さまに完成した鉄道車両を納めることが仕事でした。JR東海さんに新幹線を納めたり、地下鉄などの私鉄さんに車両を納めたりと、仙台も含め全国的にお客さまがいらっしやいます。しかし、震災の後はどうしても納品が遅れるわけです。その時、お客さまから「うちの鉄道が計画通りに動くように、持ってきてもらえらるんだらうね」とクギを刺されましたね。「これは手厳しい」と思いましたが、その言葉が実は「元気づけ」に他ならなかったことが、後になつてよくわかったのです。それがあつたからこそ鉄道車両をつくるプロとして、川崎重工という会社のプロとして、みんなで力を合わせて「何とか完成させなければ」という気持ちになりましたし、何とか納期に製品を納めることができたのだと思います。そして、その車両がまちで運行されているのを見て、「やり遂げた」という感覚が従業員の中にも広がったでしょうし、もちろん私自身もそうでした。

東日本で被災された製造業の方々も、「ものをつくる」ということに関する感覚は、とても強いものを持っていらっしやると思います。今、維持すべき「ものづくり」は、その地域、地域にあると私は思

います。特に中小企業がその役割を担う部分が大い。そこに家族がおり、住居があり、子どもたちが暮らしています。ですから、雇用の確保も含め、早い時期の復旧を強く願っています。

ものを納める時の喜びは、ものづくりの神髄ですね。お客さまに「ようやったね。納期に間に合わせてよ」と言ったのは冗談やったのに」と言われた時には、何と言ったらいいのでしょうか。「これだな」と感じました。お客さまから感謝の気持ちをいただいて、それがまた私たちのやる気につながる。今回被災した企業の皆さまにも、ぜひ、そうやってほしいと思います。

鎌田 そうですね。とてもいいお話を聞かせていただきました。

仙台市内のこの一年は、建物自体への影響はあまりありませんでしたし、空港や新幹線も比較的早い時期に復旧しましたので、人と物が早い時期から動き出したことはよかったと思っています。

仙台市中心部の商店街では、まだラインの復旧もままならない時期、地震後一週間ほどで始動してもらいました。店主の皆さんは売るものがないとおっしゃいましたが、「人が集まり、情報交換をするだけでもいいはずだから、店を開けて欲しい」とお願いしたのです。そのうちに中心部商店街の店が開いているらしいということ、どんどん人が

集まってきたくれたのです。人が集まると、それだけで心休まるものがあります。「商店街というものはたいしたものだね」とか、「よくやってくれたね」という声が多く寄せられ、「商店街の力」というものを改めて感じました。

一方で、過度の自粛や風評が、被災地の復興の足かせとなる懸念がひろがりはじめました。そこでまず風評被害の払拭と復興の後押しのため、交流人口を増やすことからはじめようということ、昨年七月に「東北六魂祭」を行いました。青森ねぶた祭や秋田竿灯まつりといった東北の代表的な夏祭りが仙台に集まったのですが、予想以上の人が集まりました。国内外に東北の元気を発信できたと思っています。今年は五月下旬に盛岡で開催します。

また今年のデスティネーションキャンペーンを、世界遺産に登録された平泉を中心に四月から六月にかけて岩手で行いますし、東北観光博も三月にスタート

します。ちなみに仙台・宮城デスティネーションキャンペーンは来年開催されます。これを契機に、たくさんの方々から北に足を運んでいただくことで、私たちも元気になるだろうと確信しています。まだまだ大変な地域もありますが、これらを有機的に連携させ、相乗効果を生み出したいと考えています。

「復旧」から「復興」へ 相乗効果で進む「創造的復興」

進行 神戸の現状について、お聞かせいただけますか。

大橋 神戸の復興過程では、時間の経過とともに日本全体の景気悪化とも重なり、どこまでが震災の影響によるものか必ずしも明確にすることはできません。その一方で、日本経済が抱えていた潜在的な課題が震災を契機に浮き彫りとなりました。鎌田会頭が商店街のお話をされましたが、神戸の場合は、約二年後には八割まで回復、二割は撤退しました。

今回の場合も、例えば後継者難、集客力低迷などの課題が震災を契機として表に出てくると思います。ですから、過去から抱えている問題も一緒に対策・改善していく必要性があるでしょう。

「復旧」と「復興」は全く別のものです。神戸の場合は「創造的復興」という言葉を、官民一体となって使っています。原状に戻すだけでなく、「復興した暁には必ずこうなっている」というイメージを未来志向でつくり上げて、それに向かつて前進することが肝心ではないでしょうか。新産業の創造や地域外から企業・産業を呼び込むことも重視する。これがキーになるでしょう。

十七年前は、私たちが官民一体となって国に対して要望しても、かなわないことがたくさんありました。しかし何もできなかつたわけではなく、創造的復興の旗頭として行ったのが、「神戸医療産業都市構想」です。神戸のポートアイランドに高度医療技術の研究・開発拠点を整備し、医療関連産業の集積を



阪神・淡路大震災からの「創造的復興」のシンボル、神戸ポートアイランドで展開される「神戸医療産業都市構想」。

図るといふものです。海外からの進出も含め、現在二百十五の医療関連企業が集積しています。

また、その隣には「事業仕分け」で有名になったスーパーコンピューター「京」があり、今年の秋から稼働します。共に震災から十七年を経て、相乗効果を発揮することになるでしょう。さまざまな相互交流を通じて、既存産業の高度化にもつながればよいと思っています。

進行 続いて鎌田会頭は、復興に関する中長期的な取り組みについて、どのようなお考えでしょうか。

鎌田 二〇一一年度第三次補正予算および復興特区法が成立しましたし、被災自治体の復興計画が昨年出そろいましたので、復興に向けた動きが本格的になるだろうと思います。その時に忘れてはならないのが十年後、二十年後のことを念頭に置いて進めなければ、将来の宮城・東北はあり得ないということです。



東北地方の夏祭りを結集した「東北六魂祭」は、2日間で36万人以上の来場を記録した。



先ほど申し上げたお祭りなども、これ

まではそれぞれが個々に行っていました。しかし昨年の「東北六魂祭」の開催で、連携した方が相乗効果でたくさんの方が来てくださることを認識しました。ですから今度は、オール東北で四季のお祭りの連携を可能にするような組織を本年度中に立ち上げて、いつ、どこへ行っても、何かの祭りをやっている状況をつくり上げ、復興の姿をアピールしていきたいと思っています。

また東日本大震災により、サプライチェーンが寸断されたことにより、東北には国際競争力を持つ企業があるということを改めて認識したわけです。自動車関連では今年、トヨタグループの三社が経営統合し、北の中枢を担っていくことが発表されました。昨年十月には東京エレクトロニックさんの最新鋭の工場が稼働しています。地方自治体も製造業を中心に東北の産業を牽引するような、将来を見据えた考え方をしていくことが重要で

あると思います。

それにしましても、震災後、当所を脱会する企業が少なく、結果的に増えているのはありがたいことです。それだけ当所の震災後の活動に対して評価をいただいたのだと重く受け止めています。これに甘えることなく、「商工会議所に入り、利用してよかった」と思っていただけの活動を続ける努力が、長期的には大切なことだと思います。

モデル都市・地域として復興するその日に向かって

進行 最後に、お二人から会員の皆さまへメッセージをお願いいたします。

大橋 神戸の場合も一時は市内の事業所の多くが再開の見通しもたえず、まったく希望が持てない状況に陥りましたが、十七年を経て何とかここまで立ち直ることができ、街も企業も震災前の明るさを取り戻しています。さらに未来に向かって飛躍していこうという気持ちを市

民の皆さんも中小企業の皆さんも持っています。今回の東日本の地震と津波による被害は、規模から申し上げても全く神戸とは比較にならず、その代償はあまりにも大き過ぎると思います。仙台区の会員事業所の皆さんも、遠くない将来、私たちと同じように再生・発展を期し、この難局を乗り越えていかれるものと確信しております。

仙台や東北が近い将来に見事に復興を果たしたモデル都市・地域として、国内外にその勇姿を発信していくことを心より願っています。被災された皆さんに神戸からのエールしたいと思います。

鎌田 ありがとうございます。仙台市では海に面した南北約十キロの地域が壊滅的被害を受けました。そこには約二千所帯が住んでいらつしやいます。この方々がまたこのような被害に遭わないようにと、仙台市の復興計画の項目の一つとして、集団移転計画が盛り込まれています。移転後の沿岸部には、農業やエネルギーの関連産業、研究機関などを集積した新しいモデル都市を実現する方向で計画が進んでいます。日本全国、そして世界から注目されているという認識を持ち、「いいものをつくり上げた」と言われるよう取り組んでまいりますので、大橋会頭にもぜひその姿を見守り続けていただきたいと存じます。

進行 本日はありがとうございました。